



第83期 中間期

株主・投資家の皆さまへ

2020年4月1日 — 2020年9月30日

特集1

**身近なところで生きる
アマダの技術 Vol.6 コンビニ編**

特集2

**アマダを知るVol.11
アマダグループの
地球環境にやさしいものづくり**

株主さまQ&A

**社長に聞く
コロナ禍におけるビジネスの現況について**

株式会社アマダ

証券コード：6113

ごあいさつ

いつも温かなご支援・ご指導を賜り、誠にありがとうございます。
 当社グループは、これまでマシンのデジタル化や自動化、IoTを活用したサービスなど、お客さまのモノづくりを支援する先進的な取り組みを進めてまいりました。
 新型コロナウイルスの感染拡大により、お客さまのモノづくりを取り巻く環境は劇的に変化し、安全・安心かつ革新的なモノづくりへと加速的にシフトしていくものと考えられます。
 社員が一丸となって新時代に合った価値を創造し、経営理念にある「お客さまとともに発展する」の実践を通じて、お客さまのモノづくりの变革をリードしていく所存です。
 株主の皆さまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役
 社長執行役員
磯部 任



グループ一丸となり、新時代に向けた新しい価値を創造してまいります。

当中間期の概況について

当中間期の経営成績は、受注高1,129億円(前年同期比27.3%減)、売上収益1,135億円(同26.7%減)となりました。

金属加工機械事業は、板金部門において景気の影響を受けにくいアフタービジネスによる収益は小幅減少となったものの、板金部門、微細溶接部門共にマシン販売の減少が影響したことで、売上収益は929億円(前年同期比24.1%減)となりました。金属工作機械事業は、切削部門で扱う鋸刃等の消耗品販売は小幅の減収にとどまりましたが、総じてマシン販売が低調に推移したこと

により、売上収益は198億円(同37.5%減)となりました。

地域別売上収益は、国内510億円(前年同期比29.9%減)、海外625億円(同24.0%減)となりました。国内は、通信関連等の需要は堅調だったものの、総じて設備投資に手控えが見られました。北米では、設備投資意欲の減退により減収となりましたが、リモートによる販売活動が奏功したことで小幅の減収にとどまりました。欧州では、第2四半期から持ち直しの傾向があるものの、ロックダウンの影響を受け減収となりました。アジア他でもロックダウンが続いたインドで大幅な減収となりました。

損益面は、経費削減や固定資産売却益の計上はあったものの減収の影響が大きく、営業利益は154億円

2021年3月期連結決算ハイライト	前中間期	当中間期	前年同期比	通期(予想)	前期比(予想)
売上収益	1,549億円	1,135億円	26.7%減↓	2,330億円	27.2%減↓
営業利益	191億円	154億円	19.5%減↓	120億円	65.4%減↓
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益	133億円	112億円	15.9%減↓	60億円	74.3%減↓

(前年同期比19.5%減)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は112億円(同15.9%減)となりました。

通期業績の見通しについて

当中間期の業績は、期初に想定したものに対して概ね上回る形で進捗しております。また、期初より取り組んでいる経費削減も順調に進んでいることから、通期の業績予想を上方修正いたしました。

修正後の予想は、売上収益2,330億円(前期比27.2%減)、営業利益120億円(同65.4%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益60億円(同74.3%減)としています。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等の要因によりこの予想は変動する可能性があります。

今後の取り組みについて

新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受け、ビジネスの進め方も変革していくことが考えられます。これまで各地に有するテクニカルセンターなどのリアルなインフラ基盤を活用した対面でのビジネスが主流でしたが、これからはWEB展示場の構築やリモートでのサービス提供など、高度な情報通信技術を活用した新しい仕組みを取り入れ、バーチャルとリアルを融合させた新しい営業・サービスの確立を目指していきます。また、渡航制

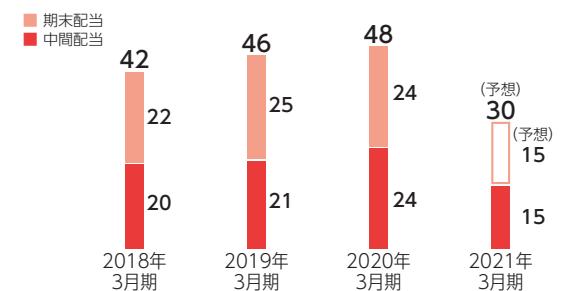
限と共に物流システムの停滞を目の当たりにしたことで、グローバルでのサプライチェーンを見直し、現地調達比率を向上させていく必要性を感じています。さらに、ウイズコロナ、アフターコロナにおける顧客ニーズの多様化を見据え、各地域の特性に対応した商品開発を現地でも進められる体制を構築していく方針です。

株主の皆さまへ

コロナ禍で厳しいビジネスが続いておりますが、当中間期の配当は、安定的な配当に留意し、当初の予定通り1株につき15円とさせていただきます。

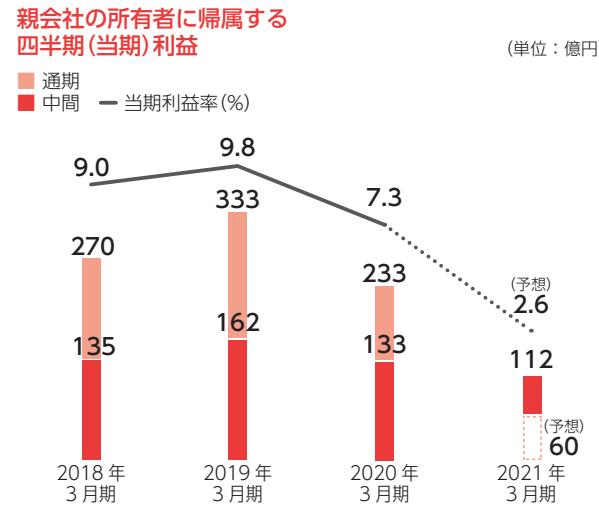
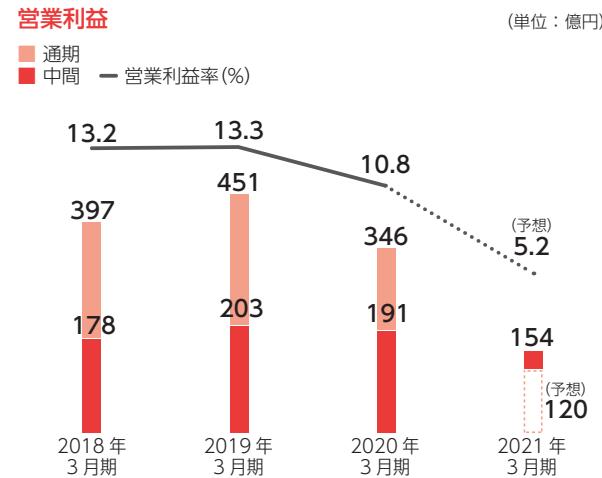
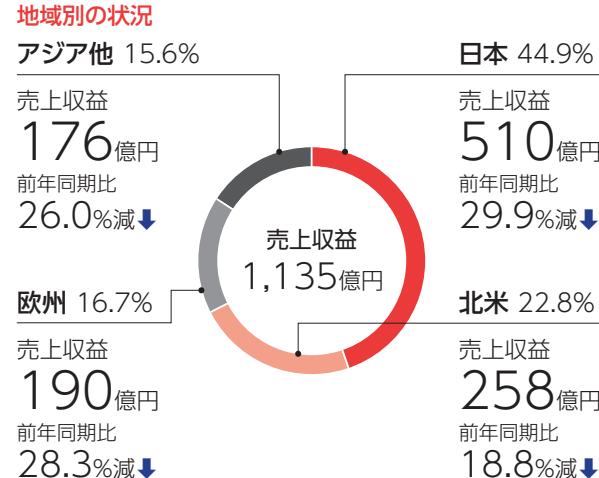
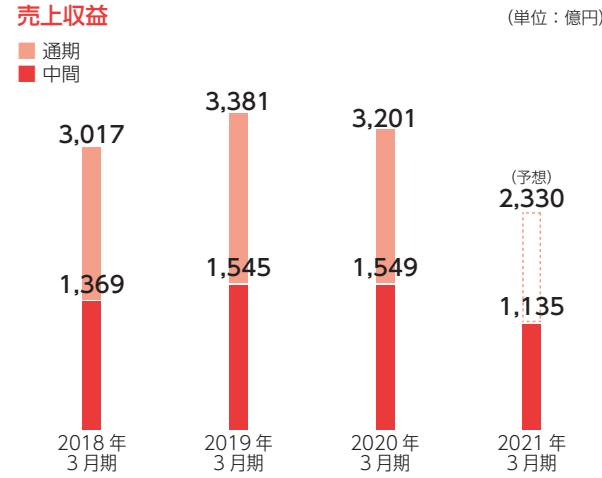
期末配当予想につきましては、今後のビジネス環境も不透明さが続くと思込めますので、当初の予定額と変わらず、1株につき15円とさせていただきます。この結果、年間配当は30円となる見込みです。

配当金の推移 (単位：円)



連結業績の推移

当中間期のポイント 日本は設備投資鈍化により減収、北米は営業努力で小幅な減収となりましたが、その他地域はロックダウン等により大幅減収。経費削減の進展と土地売却益があったものの減収の影響により減益となりました。



(注)2020年3月期第1四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行ったため、2019年3月期の数値において遡及修正しております。

連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	当中間期末 2020年9月30日現在	前期末 2020年3月31日現在
資産		
流動資産	290,156	299,338
非流動資産	254,899	259,256
有形固定資産	159,242	154,907
無形資産	14,238	15,009
その他	81,419	89,340
資産合計	545,056	558,595
負債		
流動負債	83,783	99,803
非流動負債	22,753	24,242
負債合計	106,537	124,045
資本		
資本金	54,768	54,768
資本剰余金	143,883	143,884
利益剰余金	251,419	248,515
自己株式	△12,089	△12,089
その他の資本の構成要素	△2,842	△3,986
親会社の所有者に帰属する持分合計	435,139	431,091
非支配持分	3,379	3,457
資本合計	438,519	434,549
負債及び資本合計	545,056	558,595

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当中間期 自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	前中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日
売上収益	113,519	154,940
売上原価	△68,233	△87,505
売上総利益	45,286	67,434
販売費及び一般管理費	△39,150	△48,883
その他の収益	11,435	940
その他の費用	△2,137	△329
営業利益	15,433	19,162
金融収益	1,738	1,607
金融費用	△201	△1,511
持分法による投資利益	105	237
税引前四半期利益	17,075	19,495
法人所得税費用	△5,801	△6,006
四半期利益	11,274	13,488
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	11,222	13,344
非支配持分	51	144
四半期利益	11,274	13,488

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間期 自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	前中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,462	7,933
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,949	△4,768
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,493	△1,317
現金及び現金同等物に係る換算差額	485	△1,942
現金及び現金同等物の増減額	8,504	△95
現金及び現金同等物の期首残高	47,167	56,295
現金及び現金同等物の四半期末残高	55,672	56,199

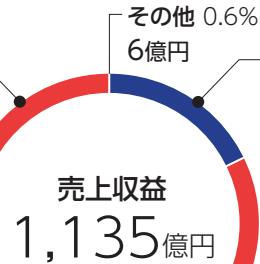
金属加工機械事業 81.9%

板金部門 微細溶接部門

売上収益 **929** 億円
前年同期比 24.1%減↓

当中間期のポイント

- 板金部門は、景気影響を受けにくいサービス販売は小幅な減収にとどまったものの、マシン販売が低調に推移しました。
- 微細溶接部門は、すべての地域で販売が減少したことで減収となりました。



金属工作機械事業 17.5%

切削部門 プレス部門 研削盤部門

売上収益 **198** 億円
前年同期比 37.5%減↓

当中間期のポイント

- 切削部門は、鋸刃等の消耗品販売は堅調だったものの、マシン販売が低調に推移しました。
- プレス部門は、自動車関連の設備投資が鈍化した影響で減収となりました。
- 研削盤部門は、金型向けや工作機械向けの販売が減少しました。

板金部門



売上収益 **828** 億円
前年同期比 23.9%減↓



金属板に穴をあけたり、切断や折り曲げ等を行うマシンを扱っており、複数の加工を同時に行う複合機や自動化の提案も行っていきます。

微細溶接部門



売上収益 **101** 億円
前年同期比 26.0%減↓



金属同士を溶接するマシンを扱っており、レーザを用いた微細溶接をはじめ、電気抵抗を利用した精密抵抗溶接にも対応しています。

切削部門



売上収益 **118** 億円
前年同期比 36.9%減↓



塊状の金属を切断したり、穴あけを行うマシンを扱っており、素材に応じたさまざまな加工を高精度で高速に行うことができます。

プレス部門



売上収益 **58** 億円
前年同期比 37.9%減↓



金属板に圧力をかけて成型するマシンを扱っており、複数のマシンと自動搬送装置を組み合わせたタンデム提案も行っています。

研削盤部門



売上収益 **21** 億円
前年同期比 39.3%減↓



金属を削って加工するマシンを扱っており、最新デジタル技術と長年培った加工ノウハウを融合した提案を行っています。

富士宮事業所モジュール工場、サテライトパークが完成

マシンの開発・製造拠点である富士宮事業所内に、主にファイバーレーザマシン用の基幹モジュールを生産する工場棟「モジュール工場」が完成しました。

基幹モジュールは、加工品質を左右する装置が含まれており、いわばファイバーレーザマシンの心臓部ともいえる部品です。安定した性能と高い品質を実現するため、富士宮事業所で集中生産し、国内外の生産拠点に供給していきます。また生産能力を高めつつ効率的な生産を行うことで、生産コストの低減を図ってまいります。



モジュール工場空撮

サプライヤーの集積拠点を新設

富士宮事業所の近郊に板金加工機械の製造で使用される制御盤や大型部品の組み立てを行う「アマダサテライトパーク」を新設しました。当社が建設した当パークにサプライヤーが入居することで、これまで分散していたサプライヤーを集約することができます。当パークと富士宮事業所が緊密に連携することで、生産および物流の効率化とコストの低減を図ります。



アマダサテライトパーク

任意の諮問委員会を設置

2020年4月より取締役会の任意の諮問機関として、独立社外取締役を委員長とする「指名委員会」および「報酬委員会」を設置しました。

各委員会は4名の委員で構成され、その過半数となる3名を独立社外取締役が占めています。指名委員会は取締役の選任および解任等について、報酬委員会は取締役および重要な使用人の報酬の方針や内容等についてそれぞれ審議し、取締役会に対して助言・提言を行う役割を担います。

任意の諮問委員会を設置したことにより、独立社外取締役の知見や助言を経営に生かしやすい仕組みとなりました。今後もガバナンス体制の強化を通して、取締役会の透明性と客観性を高めてまいります。

身近なところで生きる アマダの技術 Vol.6



私たちアマダグループは金属加工機械の総合メーカーです。
私たちがお客さまに提供するトータルソリューションを
用いてつくられた数多くの金属部品は、
皆さまが普段何気なく目にしているものに使われています。
今回は、コンビニで生きるアマダの技術をご紹介します。



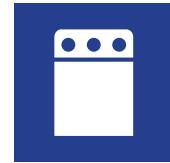
冷蔵ショーケース

冷蔵ショーケースは、清潔さを保つためステンレスでつくられているものがほとんどです。フレームや棚板は薄くて長いステンレスの板を板金加工マシンで曲げてつくられています。



業務用レンジ

業務用の電子レンジは、板金加工が施された頑丈な外装カバーで覆われています。内部にも精密に板金加工された部品が多数使われています。



ごみばこ

清潔さと美しさ、丈夫さを兼ね備えたステンレス製のごみばこが増えています。主に板金加工により製造されています。



ATM

ATMは、防犯上堅牢にできており、外装は板金加工で作られた部品が使用されています。ATMは代表的な板金製品の1つです。



アマダを知る Vol.11

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



アマダグループの地球環境にやさしいものづくり

アマダグループは、経営理念の一つである「人と地球環境を大切にする」という考え方のもと、エコなモノづくりでお客さまと社会、そして世界とつながる企業をめざしています。

CO₂ 「アマダエコプロダクツ」の創出と拡販

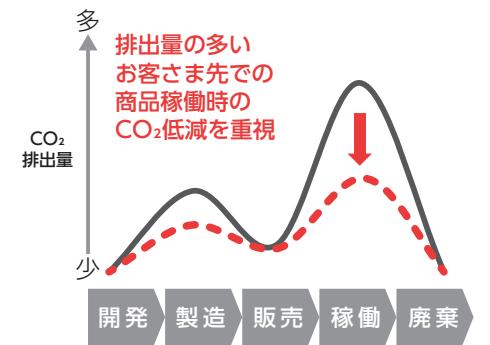
アマダエコプロダクツは、生産性と省エネ性を同時に実現する環境性能の高い商品を認定する制度です。商品の企画設計段階で行う環境性能の評価に加え、さらに厳しい社内基準に基づいて審査・認定が行われています。アマダエコプロダクツを創出し拡販することにより、商品ライフサイクル上で最も多いとされるお客さま先でのマシン稼働時に排出されるCO₂の低減に寄与しています。



「アマダエコプロダクツ」マーク
現在の認定機種は34機種です。



商品ライフサイクルとCO₂排出量のイメージ



ENSIS-AJシリーズが数々の賞を受賞

アマダエコプロダクツの一つであるファイバーレーザーマシンENSIS-AJシリーズが、高い環境性能を有していることが評価され、2016年には優秀省エネルギー機器表彰において「資源エネルギー庁長官賞」を、2019年には「かながわ地球環境賞」を受賞しました。



かながわ地球環境賞 授賞式にて



ファイバーレーザーマシン
ENSIS-3015AJ

アマダエコプロダクツ販売台数の推移



磯部社長に聞く
株主さま



株主さまアンケートやお問い合わせにてお寄せいただくさまざまなお質問に、当社代表取締役 社長執行役員 磯部 任がお答えします。

Q コロナ禍におけるビジネスの現況は

一時は従業員の安全を確保するため緊急避難的に自宅待機やリモートワークを行ってきましたが、販売の現場ではニューノーマルへの対応に意識が向かいつつあります。北米ではWEBを活用した非対面での提案を展開し始めるなど、新たな商談方式が確立しつつあります。今後はグローバルで既存の施設を用いたリアルとWEBを活用したバーチャルの両面での提案に注力していく方針です。



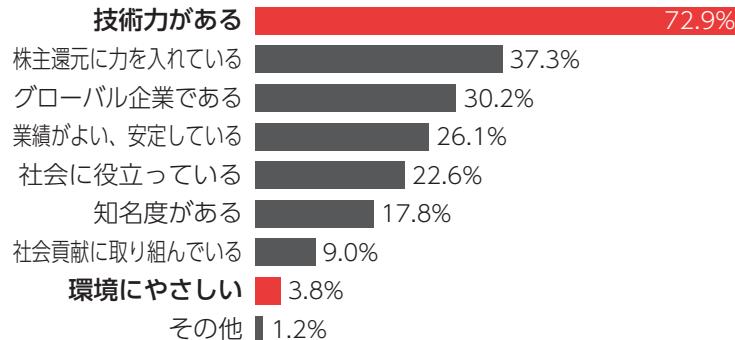
Q コンプライアンスに関する取り組みについて教えてほしい

グループ内の法令違反や不正行為の早期発見を目的に内部通報制度を運用しており、国内外から通報を受け付けています。匿名での通報を可能とし、外部のコンサルティング会社も通報先に加えるなど、情報提供しやすい体制を整備しています。また、従業員には定期的にオンラインでのコンプライアンス教育なども行っています。

株主さまアンケートのご報告

6月発行の「株主・投資家の皆さまへ」でのアンケートにご協力いただきありがとうございました。皆さまからの貴重なご意見を生かし、IR活動のさらなる充実に努めてまいります。

Q. あなたは当社にどのような企業イメージをお持ちですか (複数回答)



当社グループは、技術力を駆使して地球環境にやさしい商品づくりにも注力しています。環境負荷の少ない商品、「アマダエコプロダクツ」の創出について、8ページの「アマダを知る」にて特集していますのでぜひご覧ください。



アマダエコプロダクツ



IR ホームページのご案内 <https://www.amada.co.jp/ja/ir/>



当社の会社概要、企業活動、商品、IRなどに関する詳しい情報につきましては当社WEBサイト上にてご覧いただけます。ぜひご利用ください。



単元未満株式をお持ちですか？

単元未満株式では行えないこと

- 市場での売買ができません。
 - 議決権の行使ができません。*
- * 1単元に満たない株式のみをご所有の株主さまの場合

■ 買取・買増制度の例



当社では単元未満株式(1~99株)をご所有の株主さまには、単元株式に不足する数の当社株式を買い増して、単元株式にさせていただく「単元未満株式買増制度」、ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく「単元未満株式買取制度」のいずれかをご利用いただけます。

ご連絡先：みずほ信託銀行 証券代行部 (フリーダイヤル) 0120-288-324

株主さまアンケートご協力をお願い

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

株主の皆さまからのご意見・ご要望を今後の活動の参考とさせていただきますため、WEBアンケートを実施いたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヵ月間(2021年1月31日まで)です。

→パソコンから
<https://q.srdb.jp/>

→スマートフォン・携帯電話から
右のQRコードを読み取ることで直接アンケート画面へアクセスできます。



→メールから
enq@q.srdb.jpへ空メールを無記入でご送信いただき、自動返送されるアンケート回答用のURLからアクセスいただけます。

【ネットでアンケート】は宝印刷株式会社が運営し、ご回答いただいた内容は宝印刷株式会社が管理いたします。

宝印刷株式会社については<https://www.takara-print.co.jp/>をご参照ください。ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承認なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

*アンケートに関するお問い合わせ先:kabu@takara-print.co.jp

*平日17時以降、ならびに土、日、祝日及び年末年始等の休業日中のお問い合わせに関しては翌営業日の回答となります。

【個人情報の取り扱いに関して】

お答えいただくアンケートの回答内容・個人情報につきましては、「統計的にデータをまとめたうえで分析し、サービスを改善すること」を目的として利用し、個人が特定できる形で利用されることはありません。その他、個人情報に関する取り扱いに関しては宝印刷株式会社の「個人情報の取り扱い」(<https://www.takara-print.co.jp/privacy/>)のとおりです。

ご回答いただいた方の中から抽選でQUOカード(1,000円)を進呈させていただきます。

■ 会社概要

商号 株式会社アマダ
(AMADA CO., LTD.)
設立 1948年5月1日(創業1946年9月10日)
資本金 54,768百万円
従業員数 連結 9,066名

■ 役員一覧

取締役

代表取締役 社長執行役員	磯部 任
取締役 専務執行役員	栗原 俊典
取締役 専務執行役員	福井 幸弘
取締役 常務執行役員	三輪 和彦
取締役 相談役	岡本 満夫
社外取締役	間塚 道義
社外取締役	千野 俊猛
社外取締役	三好 秀和

監査役

常勤監査役	重田 孝哉
常勤監査役	柴田 耕太郎
社外監査役	竹之内 明
社外監査役	西浦 清二

■ 株式情報

発行済株式の総数 359,115,217株
(自己株式 11,450,202株を含む)

株主数 42,369名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率* (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	43,117	12.4
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	27,607	7.9
公益財団法人天田財団	9,936	2.9
SMBC日興証券株式会社	8,535	2.5
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	8,534	2.5
株式会社みずほ銀行	7,500	2.2
日本生命保険相互会社	5,894	1.7
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	5,114	1.5
JP MORGAN CHASE BANK 385781	5,095	1.5
STANDARD LIFE ASSURANCE LIMITED-PENSION FUNDS	5,027	1.4

※出資比率は自己株式を除いて計算しています。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
及 び 特 別 口 座 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
の口座管理機関 ☎ 0120-288-324(フリーダイヤル)
公 告 方 法 電子公告

https://www.amada.co.jp/ja/ir/stock_info/koukou/
事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。

株式会社アマダ

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田 200

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



森林に配慮して適切に管理された
森林認証紙を使用しています。



環境に配慮した当社のベジタブル
オイルインキを使用しています。